

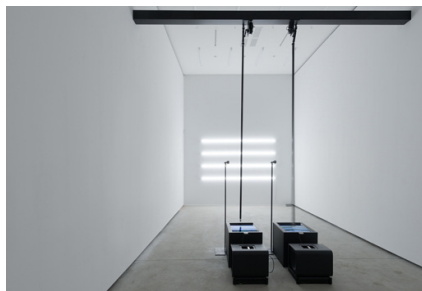
平成25年度[第17回] 文化庁メディア芸術祭 受賞作品発表 4,347作品の応募から、ついに決定!

このたび、平成25年度[第17回]文化庁メディア芸術祭の受賞作品及び功労賞受賞者を決定いたしました。

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。本年度の作品応募では、過去最多となる海外83か国・地域からの2,347作品を含む、合計4,347作品(昨年度比124%)が寄せられました。厳正なる審査の結果、部門ごとに、大賞1作品、優秀賞4作品、新人賞3作品を、功労賞としてメディア芸術分野に貢献のあった4名を選出しました。

来年2月4日(火)に開催する贈呈式では、各受賞者に賞状、トロフィーを贈呈します。また、2014年2月5日(水)から2月16日(日)まで、東京・六本木の国立新美術館を中心に、受賞作品等を紹介する受賞作品展を開催します。作品の展示や上映、国内外の多彩なアーティストやクリエイターが集うシンポジウムやプレゼンテーション、ワークショップ等の様々なプログラムを通じ、同時代の表現を紹介します。今年度を代表するメディア芸術に触れることができる貴重な12日間です。

■ 第17回文化庁メディア芸術祭 大賞受賞作品



©2013 Carsten Nicolai. All Rights reserved. Photo: Uwe Walter
Courtesy Galerie EIGEN + ART Leipzig/Berlin and The Pace Gallery



©Honda Motor Co., Ltd. and its subsidiaries and affiliates.

左:アート部門
シーアールディー エムジーエヌ
『crt mgn』
メディアインスタレーション
カールステン ニコライ
Carsten NICOLAI [ドイツ]

右:エンターテインメント部門
サウンド オブ ホンダ アイルトン セナ
『Sound of Honda / Ayrton Senna 1989』
映像、ウェブサイト、メディアインスタレーション、サウンド
菅野 薫/保持 壮太郎/大泉 優/キリーロハナージャ/
米澤 香子/関根 光才/澤井 妙治/真鍋 大度 [日本/ロシア]

左:アニメーション部門
『はちみつ色のユン』
ドキュメンタリー-アニメーション
ユン/ローラン・ポアロー [ベルギー/フランス]

右:マンガ部門
『ジョジョリオン
-ジョジョの奇妙な冒険Part8-』
荒木 飛呂彦 [日本]



©Mosaïque Films - Artémis Productions - Panda Média - Nadasy
Film - France 3 Cinéma - 2012



©LUCKY LAND COMMUNICATIONS/SHUEISHA

広報問合せ先

文化庁メディア芸術祭事務局 広報担当[hilo Press内] 鎌倉・星野・佐藤・伊藤

Email : jmaf17-pr@hilopress.net Tel : 03-5577-4792 Fax : 03-6369-3596 (受付時間:平日10時~18時)

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-18-11-905

1. 応募概況

募集部門＝ 4 部門（アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガ）

募集期間＝ 2013 年 7 月 11 日（木）～ 9 月 12 日（木）64 日間

応募総数＝ 4,347 作品

受賞総数＝ 32 作品（各部門 大賞 1 作品、優秀賞 4 作品、新人賞 3 作品）／ 功労賞 4 名

審査委員会推薦作品数＝ 130 作品

参考)

■部門・ジャンル別内訳

インタラクティブアート	217
メディアインスタレーション	421
映像作品	934
グラフィックアート	678
ウェブ	88
メディアパフォーマンス	144
アート部門	計 2,482

ゲーム	114
映像作品	327
ガジェット	71
ウェブ	78
アプリケーション	79
エンターテインメント部門	計 669

劇場アニメーション テレビアニメーション オリジナルビデオアニメーション	76
短編アニメーション	511
アニメーション部門	計 587

単行本で発行されたマンガ 雑誌等に掲載されたマンガ	502
コンピュータや携帯情報端末等で 閲覧可能なマンガ	68
同人誌等を含む自主制作のマンガ	39
マンガ部門	計 609

応募作品総数	4,347
---------------	--------------

■海外からの応募

2,347 作品／ 83 か国・地域（昨年度 [第 16 回] 1,502 作品／ 71 か国・地域）

アイスランド、アイルランド、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イスラエル、イタリア、イラン、インド、インドネシア、ウクライナ、英国、エクアドル、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、韓国、カンボジア、ギリシャ、キルギス、グアテマラ、クロアチア、ケニア、コスタリカ、コソボ、コロンビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、セネガル、セルビア、セルビア・モンテネグロ、タイ、台湾、チェコ共和国、中国、チリ、デンマーク、ドイツ、トルコ、ナイジェリア、ニュージーランド、ネパール、ノルウェー、パキスタン、パナマ、パレスチナ、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、米国、ベトナム、ベネズエラ、ベラルーシ、ペルー、ベルギー、ポーランド、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ポリビア、ポルトガル、香港、マカオ、マケドニア、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルワンダ、レバノン、ロシア（五十音順）

2. 審査委員（実行委員会）

平成25年度[第17回]文化庁メディア芸術祭 実行委員会

■ 会 長 青柳 正規（文化庁長官）

■ 運営委員 青木 保(国立新美術館長)
建畠 哲(京都市立芸術大学長)
古川 タク(アニメーション作家/東京工芸大学客員教授)

■ 審査委員

アート部門

植松 由佳(国立国際美術館主任研究員)
岡部 あおみ(美術評論家)
後々田 寿徳(キュレーター/梅香堂オーナー)
高谷 史郎(アーティスト)
三輪 眞弘(作曲家/情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授)

エンターテインメント部門

飯田 和敏(ゲーム作家/デジタルハリウッド大学教授)
岩谷 徹(ゲームクリエイター/東京工芸大学教授)
宇川 直宏(現在美術家/京都造形芸術大学教授/DOMMUNE主宰)
久保田 晃弘(アーティスト/多摩美術大学教授)
中村 勇吾(インターフェースデザイナー/tha ltd. 代表取締役)

アニメーション部門

大井 文雄(アニメーション作家)
小出 正志(アニメーション研究者/東京造形大学教授)
杉井 ギサブロー(アニメーション映画監督)
森本 晃司(アニメーション監督)
和田 敏克(アニメーション作家)

マンガ部門

伊藤 剛(マンガ評論家/東京工芸大学准教授)
斎藤 宣彦(編集者/マンガ研究者)
すがや みつる(マンガ家/京都精華大学教授)
みなもと 太郎(漫画家/マンガ研究者)
ヤマダ トモコ(マンガ研究者)

■ 選考委員

アート部門

小町谷 圭(メディアアーティスト/札幌大谷大学講師)
工藤 健志(青森県立美術館学芸員)
田坂 博子(東京都写真美術館学芸員/恵比寿映像祭キュレーター)

松井 茂(詩人/東京藝術大学芸術情報センター助教)
鷺田 めるろ(金沢21世紀美術館キュレーター)

■ 顧 問 浜野 保樹（東京工科大学教授/東京大学名誉教授）

3. 各 賞

高い芸術性と創造性を基準として、部門ごとに大賞1作品、優秀賞4作品、新人賞3作品を選定します。
また、審査委員会の推薦により、メディア芸術分野に貢献のあった方に対して、功労賞を贈呈します。

メディア芸術祭賞(文部科学大臣賞)

大 賞：賞状、トロフィー、副賞 60 万円
優秀賞：賞状、トロフィー、副賞 30 万円
新人賞：賞状、トロフィー、副賞 20 万円
功労賞：賞状、トロフィー

このほか、優れた作品を審査委員会推薦作品として選定します。



昨年度のメディア芸術祭賞贈呈式の様子

4. 報道関係者向け内覧会・贈呈式 ※詳細は1月に御案内いたします。

受賞作品展開催に先立ち、2014年2月4日(火)に内覧会並びに贈呈式を開催します。

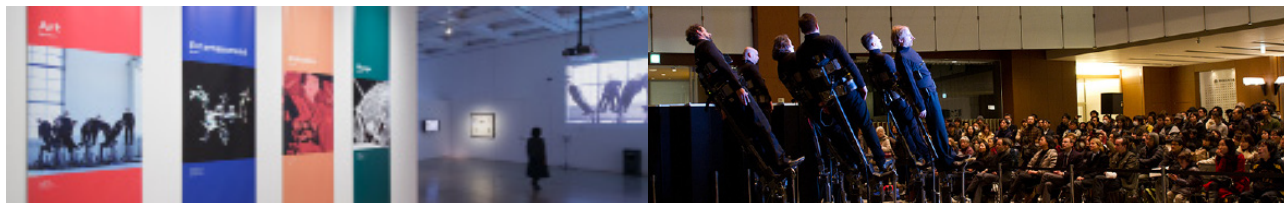
■報道関係者向け内覧会 ※受賞者への取材も受け付けます。

日時=2014年2月4日(火) 14:00～15:00(予定) 会場=国立新美術館 1階 企画展示室 1E
※内覧会は17:00まで開場しています。(入場は閉場の30分前まで)

■贈呈式 ※贈呈式は御招待者のみ参加可能です。

日時=2014年2月4日(火) 16:30～17:45(予定) 会場=国立新美術館 3階 講堂

5. 受賞作品展 ※詳細は1月に御案内いたします。



昨年度[第16回]文化庁メディア芸術祭受賞作品展の様子

■実施内容

- 作品展示/上映会/マンガライブラリー/パフォーマンス/トークイベント/ワークショップ/ガイドツアー 等
- ・世界84か国・地域の4,347作品から選ばれた作品、約120点を一堂に紹介。
 - ・同時代に創造された多様なジャンルの作品を横断的に見ることができる。
 - ・充実した上映プログラムにより、拡張し続ける現在の映像表現を俯瞰して見ることができる。
 - ・会期中には、トークイベント、パフォーマンス、ワークショップ等、約40のプログラムを開催。
 - ・テクノロジーの進化によって変わりゆく、同時代の芸術表現を体感できる。

会 期 2014年2月5日(水)～2月16日(日)
会 場 国立新美術館(東京都港区六本木7-22-2) ※2月12日(水)休館
10:00～18:00 金曜日は20:00まで ※入場は閉館の30分前まで

東京ミッドタウン(東京都港区赤坂9-7-1)
シネマート六本木(東京都港区六本木3-8-15)
スーパー・デラックス(東京都港区西麻布3-1-25 B1F)
※開館時間、休館日は会場によって異なります。

入場無料 ※全てのプログラムは参加無料です。

主催 文化庁メディア芸術祭実行委員会
問合せ先 文化庁メディア芸術祭事務局 [CG-ARTS協会内] 〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-16 3F
[一般受付] Tel: 03-5459-4755 (受付時間:9時～20時)

文化庁メディア芸術祭公式ウェブサイト <http://j-mediaarts.jp>
Facebook <http://www.facebook.com/JapanMediaArtsFestival>
Twitter @JMediaArtsFes

第17回
文化庁メディア芸術祭
受賞一覧

賞名	作品名 作品形態	作者名 [国籍]	
アート部門	大賞	crt mgn メディアインスタレーション Carsten NICOLAI [ドイツ]	
	優秀賞	を超える為の余白 メディアインスタレーション 三原 聡一郎 [日本]	
		Dronestagram ウェブサイト James BRIDLE [イギリス]	
		Situation Rooms インタラクティブアート Rimini Protokoll [ドイツ/スイス]	
		The Big Atlas of LA Pools データアート Benedikt GROSS [ドイツ]	
	新人賞	Learn to be a Machine DistantObject #1 インタラクティブアート LAU Hochi [香港]	
		Maquila Region 4 メディアパフォーマンス Amor MUNOZ [メキシコ]	
		The SKOR Codex グラフィックアート Aymeric MANSOUX, representative of "The SKOR Codex" [フランス]	
	エンターテインメント部門	大賞	Sound of Honda /Ayrton Senna 1989 映像、ウェブサイト、メディアインスタレーション、サウンド 菅野 薫/保持 壮太郎/大来 優/キリーロバ ナージャ/米澤 香子/関根 光才/澤井 妙治/真鍋 大度 [日本/ロシア]
		優秀賞	スポーツタイムマシン メディアインスタレーション 犬飼 博士/安藤 僚子 [日本]
プラモデルによる空想具現化 ジオラマ、ガジェット 池内 啓人 [日本]			
燃える仏像人間 劇メーション UJI Tea [日本]			
トラヴィス「ムーヴィング」 ミュージックビデオ Tom WRIGGLESWORTH / Matt ROBINSON [イギリス]			
新人賞		ゼゼヒヒ ウェブサイト 津田 大介 [日本]	
		やけのはら「RELAXIN」 ミュージックビデオ 最後の手段 (有坂 亜由夢/おいた まい/コハタレン) [日本]	
		TorqueL prototype 2013.03 @ E3 ゲーム なんも (柳原 陸幸) [日本]	
アニメーション部門		大賞	はちみつ色のユン ドキュメンタリー・アニメーション ユン/ローラン・ポアロー [ベルギー/フランス]
		優秀賞	有頂天家族 テレビアニメーション 吉原 正行 [日本]
	ゴールデンタイム 短編アニメーション 稲葉 卓也 [日本]		
	サカサマのパテマ 劇場アニメーション 吉浦 康裕 [日本]		
	エヴァンゲリオン新劇場版:Q 劇場アニメーション 庵野 秀明 [日本]		
	新人賞	ようこそぼくです選 短編アニメーション 姫田 真武 [日本]	
		Airy Me 短編アニメーション 久野 遥子 [日本]	
		WHILE THE CROW WEEPSーカラスの涙ー 短編アニメーション 鋤柄 真希子/松村 康平 [日本]	
マンガ部門	大賞	ジョジョリオンージョジョの奇妙な冒険Part 8ー 荒木 飛呂彦 [日本]	
	優秀賞	昭和元禄落語心中 雲田 はるこ [日本]	
		それでも町は廻っている 石黒 正数 [日本]	
		ちいさこべえ 望月 ミネタロウ/原作:山本 周五郎 [日本]	
		ひきだしにテラリウム 九井 諒子 [日本]	
	新人賞	アリスと蔵六 今井 哲也 [日本]	
		塩素の味 バスティアン・ヴィヴェス/訳:原 正人 [フランス/日本]	
		夏休みの町 オンラインコミック 町田 洋 [日本]	
	功労賞	阿部 修也 エンジニア/アーティスト	
		柏原 満 音響効果	
中村 公彦 コミティア実行委員会代表			
松本 俊夫 映画監督/映像作家/映画理論家			

大賞

シーアールティー エムジーエヌ

crt mgn

メディアインスタレーション

Carsten NICOLAI [ドイツ]

©2013 Carsten Nicolai. All rights reserved.



●作品URL

http://www.carstennicolai.de/?c=works&w=crt_mgn

Photo : Uwe Walter

Courtesy Galerie EIGEN + ART Leipzig/
Berlin and The Pace Gallery



©sebastian mayer, AEIOU

Carsten NICOLAI カールステン・ニコライ

1965年、旧東ドイツ、カール＝マルクス＝シュタット県生まれ。形式やジャンルを越えた総合的な芸術に取り組んでいる。自然科学的な法則や規則に影響を受け、グリッドやコードといった数学的なパターンや、エラーやランダム、そして自然の自己生成システムといったものを活用して制作している。

[受賞者コメント]

『crt mgn』が第17回文化庁メディア芸術祭で大賞に選ばれたことは、私にとって非常に光栄なことであり、心から感謝しています。

私の日本に対する親近感や、プロフェッショナルなアーティストとしての日本とのつながりを思うと、今回の受賞は大変意義深いものです。皆さまに、心から感謝を申し上げたいと思います。

来年2月に開催される文化庁メディア芸術祭受賞作品展で日本を訪れることをとても楽しみにしています。

作品概要

本作は、テレビのモニターに映るイメージが、磁石の力を受けて変化するさまを「見る」こと、そして電磁波の作用によって発生した音を「聴く」ことを観客に促す。モニター上には、空間内に設置された4つのネオン管の光が映し出される。天井から吊られているのは、磁石の付いた揺れる振り子。その磁界をテレビに設置されたアンテナが捉え、振り子が通過するたびに、モニター上のイメージは歪んでいく。一方でアンテナは電磁波を分析する装置として音響機材へとつながっている。電磁波の変動が音響信号へと変換されることで、観客はそれを「音」として知覚することができる。本作は、日常の中では人間が感じることができない電磁波を、視覚と聴覚で捉えることを可能にする。

贈賞理由

世界各国の美術館や国際展で活躍する著名な作家であることから、大賞を受賞するのは当然という見方もあるかもしれないが、本作はメディアの歴史を踏まえた比類なき傑作として大賞に輝いた。本作品の発想はビデオ・アートのパイオニア、ナム・ジュン・パイクが亡くなった翌年、追悼の意をこめて開催された東京のワタリウム美術館での展示を機会としている。カールステン・ニコライは、実験音楽をはじめ、自然と科学への興味から空間・光・音を探求する斬新な作品を手掛けてきた。今作では、発光するネオン管の光をモニター上に画像化し、磁石による恣意的な揺らぎを電磁波に作用させてかすかな音を発生させる装置を制作。テレビを媒体としたパイクの作品イメージを想起させる美しく可変的な画像を生み出した。秩序立ったシャープで研ぎ澄まされた空間構成による詩的なインスタレーションは、メディアの過去と現在、視覚と聴覚を結び、先人への深い愛も感じさせるすばらしい作品である。(岡部 あおみ)

大賞

サウンド

オブ

ホンダ

アイルトン

セナ

Sound of Honda / Ayrton Senna 1989

映像、ウェブサイト、メディアインストール、サウンド

菅野 薫 / 保持 壮太郎 / 大来 優 / キリーロバ ナージャ / 米澤 香子 / 関根 光才 / 澤井 妙治 / 真鍋 大度 [日本/ロシア]

©Honda Motor Co., Ltd. and its subsidiaries and affiliates.



●作品 URL

<http://www.honda.co.jp/internavi-dots/dots-lab/senna1989/>

©Honda Motor Co., Ltd.
and its subsidiaries and affiliates.



菅野 薫 SUGANO Kaoru (1)

1977年、東京都生まれ。(株)電通 クリエイティブ・テクノロジスト。

保持 壮太郎 YASUMOCHI Sotaro (2)

1981年、神奈川県生まれ、瀬戸内育ち。(株)電通 CMプランナー/コピーライター。

大来 優 ORAI Yu (3)

1983年、東京都生まれ。(株)電通 アート・ディレクター。

キリーロバ ナージャ Nadya KIRILLOVA (4)

1984年、ロシア生まれ、世界育ち。(株)電通 クリエイティブ/コピーライター。

米澤 香子 YONEZAWA Kyoko (5)

1985年、神奈川県生まれ。(株)電通 クリエイティブ・テクノロジスト。

関根 光才 SEKINE Kosai (6)

1976年、東京都生まれ。映像作家。CM、ミュージックビデオ、映画などをベースとした映像の演出を手がけ、インターナショナルなレンジでの活躍が特徴的。文化横断的なストーリーテリングと、実験的な表現を中心に活動を続けている。

澤井 妙治 SAWAI Taeji (7)

1978年、大阪府生まれ。サウンドアーティスト、Qosmo, Inc.取締役。さまざまな環境下での音の与える効果にフォーカスし、プロダクト/広告/Web/映画など幅広い領域で活躍する。ソロでの活動では、Sonarなどの海外のフェスティバルを中心にパフォーマンスやインストールを発表している。

真鍋 大度 MANABE Daito (8)

1976年、東京都生まれ。アーティスト、プログラマーとして活動。デザインファーム「ライゾマティクス」、ハッカーズスペース「4nchor5La6」ディレクター。高度なプログラミング技術と徹底したリサーチ、独創的なアイデアでエンターテインメントをはじめ多様なジャンルにおいて新たな境地を切り拓く。

[受賞者コメント]

このような素晴らしい賞を頂くことができ、心から嬉しく思っております。この壮大なプロジェクトと一緒に作りあげた全ての関係者の皆さまに、中でも24年前から今まで変わらず、想いを技術に込めて世界で戦っているHondaの皆さまに、感謝と祝福を伝えたいと思います。広告の仕事に携わる人間として、Hondaの想いと技術を一番素敵な姿で伝えるお手伝いが少しでも出来たのであればこれ以上の喜びはないと思っています。最後に、この賞を24年の時を経て再びHondaと共にポールポジションに立ったアイルトン・セナに捧げたいと思います。この度はありがとうございました。(菅野 薫)

作品概要

走行データを用いてドライブをデザインする本田技研工業のカーナビゲーションシステム「インターナビ」。その独自の技術と歴史をひもとくため、1989年のF1日本グランプリ予選でアイルトン・セナが樹立した、世界最速ラップの走行データを用い、彼の走りを音と光でよみがえらせた。エンジンやアクセルの動きを解析し、実際のMP4/5マシンから録音したさまざまな回転数の音色と組み合わせることで、当時のエンジン音を再現。全長5,807mの鈴鹿サーキット上に無数のスピーカーとLEDを設置し、再現した音を走行データに合わせて鳴らすことで、24年前の走りを表現した。特設サイトではWebGL (ウェブページ上で3Dグラフィックスを表示する標準規格)により当時のラップタイム“1分38秒041”を3DCGで再現し、セナの走りを体感できるコンテンツを公開。加えて、当時のエンジン音を自分のクルマで楽しむことができるスマートフォン用のアプリも開発・配布された。

贈賞理由

Hondaのエンジニアによって記録された走行データをグラフ化した紙1枚から、セナのエンジン音を再現しようとした発案そのものが面白く、総力を尽くして巨大な再現インストールへと変貌させたプロジェクトである。サンプリングとチューニングされたエンジン音を聞くだけで、鑑賞者の脳の奥に仕舞われていたはずの思い出深い空間データが見事に引き出され、映像として脳裏によみがえり始める。次第に時間を超えてそこに立っているかのような錯覚に陥ってしまい、スロットル開度データに基づいて微妙に触れ動くアクセル挙動を見ていると、今度は「セナ足」の映像が想起されるなど、作者の「データが人の心を動かすことができるか」という挑戦とその成果が高く評価された。しっかりとした基礎データは、時間によって鮮度が落ちることが無く、またメディアの変遷にも左右されずに、表現され続けていく源に成り得ることが、この作品で示されたのではないだろうか。(岩谷 徹)

大賞

はちみつ色のユン

ドキュメンタリー・アニメーション（1時間15分）

ユン/ローラン・ボアロー [ベルギー/フランス]

©Mosaïque Films - Artémis Productions - Panda Média - Nadasdy Film - France 3 Cinéma - 2012



●作品 URL
<http://hachimitsu-jung.com/>

©Mosaïque Films - Artémis Productions - Panda Média - Nadasdy Film - France 3 Cinéma - 2012



ユン JUNG (左)

1965年、韓国で生まれ、その後ベルギーの一家の養子になる。バンド・デシネ（フランス語圏のマンガ）作家、映画監督。91年の『Yasuda』で存在感のある人物を生き生きと描き、高評価を得る。2007年には自伝的バンド・デシネ作品『Couleur de peau : Miel（原題・肌の色：はちみつ色）』を発表。同作を原作とした本作品では監督も務めた。

ローラン・ボアロー Laurent BOILEAU (右)

1968年、フランス生まれ。ドキュメンタリー監督。カメラマン、エディターとしてドキュメンタリー番組に携わった後、監督に転身。フランスの国営放送「France 2 / France 3 / France 5」や、「Canal +」「Planète」の番組を多数手掛けたかわら、バンド・デシネに関するサイトで論評も行っている。

【受賞者コメント】

ユン 過去には宮崎駿氏、大友克洋氏といった有名な監督の作品が受賞している、この栄誉ある賞をいただいたことを光栄に思います。そして大変感激しています。この度の受賞は、日本のアニメーションの大ファンである私にとって、大きな喜びそして誇りであり、特別な意味を持ちます。本作でも紹介していますが、幼少期の私がアイデンティティを形成する過程において、日本文化の存在はとても大きく、当時恥ずべきことと感じていたアジア人であることを受け入れるきっかけになりました。そして私のルーツが韓国にあることを誇りに思えるようになったのです。本作は、韓国からの国際養子に焦点を当てています。私はこのテーマを取り上げること、ポジティブなメッセージを伝えたいと思っています。養子になることは必ずしも不幸な運命ではない、私たちは運命を変えることができるのです！

ローラン・ボアロー 本作が第17回文化庁メディア芸術祭の大賞を受賞したことを、大変誇りに思います。この作品は、生き残る、適応する、創造する、再生するといった人間の驚くべき能力を描き、私たちの人生への探究を淡々と映し出しています。映像監督として私がこの20年に受賞した賞それぞれに、特別な思いがあります。この作品と、この度の素晴らしい賞に、心から感謝します。

作品概要

朝鮮戦争後の韓国では、多くの子どもが養子として祖国を後にした。その中の一人「ユン」は、ベルギーのある一家に“家族”として迎えられた。肌の色が異なる両親と4人の兄妹とともに生活を送る中で、フランス語を覚え、韓国語や孤児院での生活を忘れることができた「ユン」。そんな時にもう一人、韓国からの養女がやってきて“家族”に加わった。彼女を見て、「ユン」は自分が何者なのかを意識し始める――。韓国系ベルギー人のユン監督が自身の半生を描いたマンガをもとに、ドキュメンタリー映画監督ローラン・ボアローと共同監督したアニメーション。現代のソウル、そして1970年当時のユン監督が写された8ミリフィルムや記録映像による実写と、手描きやCGによる3Dアニメーションといった多彩な手法でシーンを描き分け、アニメーション表現の可能性を切り拓く。肌の色が違っても、血のつながりがなくても、愛に満ちている“家族”のあり方を本作は物語っている。

贈賞理由

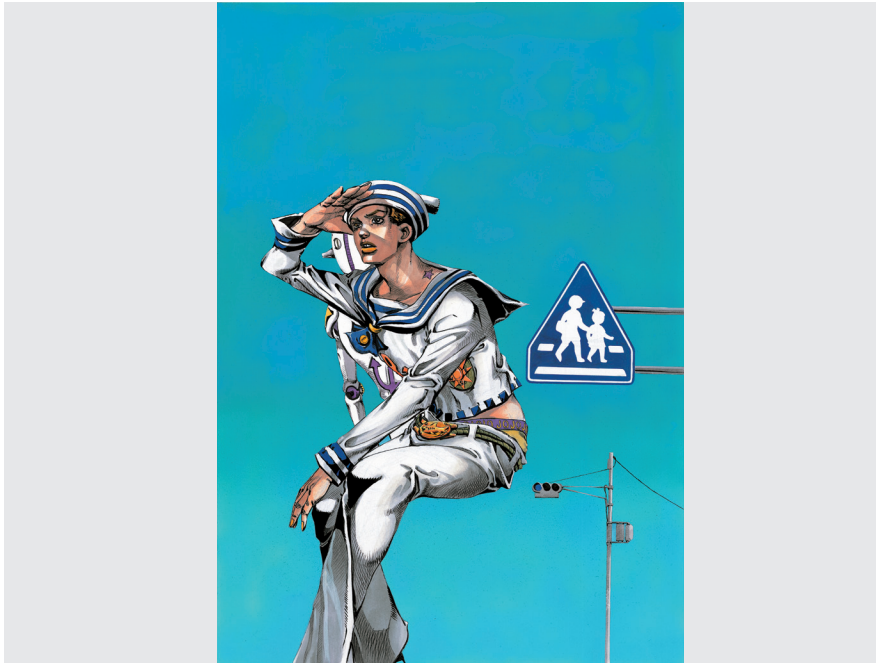
昨今流行りの“自分探し”物語とはひと味もふた味も違う作品である。肌の色の“はちみつ色”に込められた意味は多分に苦みも含まれていて複雑である。朝鮮戦争による特需で戦後日本が潤う中、韓国では戦争孤児が生まれた。その多くが欧米に里子に出されていた事実を隣国の我々は知らない。いやその想像力すら欠けていた。主人公「ユン」＝作者が、捨てられた（のかもしれない）祖国＝生母への思慕と、ヨーロッパ人家族（里親たち）の中の生活で独り異質である自らの心のゆがみを、作品は描いている。戦争や祖国の儒教的呪縛からもたらされた不運に対しても、また他人の不幸に手を差し伸べる確信的善意への反発をも、作者は抑制の効いた表現にとどめている。灰色の自己体験の表現をはちみつ色で中和して見せたのは作者の力量であろう。時代背景である事実の表記を実写映像が、作者自身の記憶と心情をアニメーションが織りなす形で綴られていく表現は巧みである。（大井文雄）

ジョジョリオン

—ジョジョの奇妙な冒険Part8—

荒木 飛呂彦 [日本]

©LUCKY LAND COMMUNICATIONS/SHUEISHA



©LUCKY LAND COMMUNICATIONS/SHUEISHA



荒木 飛呂彦 ARAKI Hirohiko

1960年宮城県生まれ。80年、『週刊少年ジャンプ』第20回手塚賞に『武装ポーカー』で準入選、同誌に同作品でデビュー。87年から続く『ジョジョの奇妙な冒険』は絶大な支持を獲得。2012年に開催された原画展は2会場通算10万人を動員。イタリアでも原画展が開かれるなど、海外での評価も高い。

<http://www.araki-jojo.com/>

【受賞者コメント】

このたび、大変に名誉ある賞を頂きまして心から感謝致します。

『ジョジョリオン』は集英社『ウルトラジャンプ』において、2011年から連載をさせて頂いておりますが、1987年より連載を開始した『ジョジョの奇妙な冒険』の第8部に位置する作品になります。

描き始めて27年経って、文化庁メディア芸術祭で認めて頂いたことは、誠に光栄に思います。ちょっとずつ描いていると良いこともあるのだなあと、個人的に苦しかったことや大変だったことも思い出し、感慨無量です。

このたびの機会を励みに、編集部やうちの職場のスタッフたちと共に、今後もマンガ読者の皆さまにより一層楽しんで頂けるような作品を描けるよう精進していきたいです。また社会のために、どのような形であれ、少しはお役に立てるような作品となれるなら、日本人として、マンガ家として、本当に幸せなことだと思えます。

作品概要

M県S市杜王町^{もりおうちょう}。震災で隆起してできた土地である通称「壁の目」で、一人の青年が発見された。記憶を失っていた彼は「東方定助」と名づけられ、さまざまな手がかりを元に自らの素性を探る。東方家の秘密と思惑、杜王町で起きた過去の事件、定助の素性をたどる重要な手がかりとなる「吉良吉影」^{ひがしかたじょうすけ}なる人物……さまざまな謎に定助は巻き込まれる。緻密なストーリー構成、超能力を目に見える形で表現することでマンガ表現に革命をもたらした概念“スタンド”によるバトルに加え、サスペンスにも更なる磨きをかけ、多くの読者を惹きつけた。連載28年目を迎えた「ジョジョの奇妙な冒険」シリーズの第8部。

『ウルトラジャンプ』

連載開始:2011年6月号

連載中





贈賞理由

人気のエンターテインメント作品であるというだけでなく、マニエリスティックとも評される個性的なヴィジュアル、奇想に支えられたトリッキーな演出、「少年マンガ」というジャンルにおけるコマ割り表現の可能性の追求、そして「人間讃歌」と称されるテーマ等で、人々を魅了し批評的な言説を含む豊かな語りを迎えられてきたシリーズの最新作である。今回の大賞は、本作のような充実した作品にメディア芸術祭が贈賞する機会を得た年次として記憶されるだろう。

また本作は、東日本大震災を、作家が長年に渡り築き上げてきた壮大な物語世界に取り込んでいる。物語的な想像力を凌駕する巨大な現実に対し、虚構の側から怯むことなくアプローチし、そのうえで現実の側に差し戻すという困難を成し遂げているということは許されるだろう。荒唐無稽に見える虚構を介することによって到達しうる水準があることを示し、あらためてマンガ表現のもつ「力」を認識させた作品である。(伊藤 剛)

平成 25 年度 [第 17 回] 文化庁メディア芸術祭 作品募集告知
 広報用素材貸出申請書

「第 17 回文化庁メディア芸術祭」広報用として、下記のデータをご用意しております。貸出をご希望の方は、こちらの申請書に必要な事項と希望素材のアルファベットを○で囲み、文化庁メディア芸術祭事務局広報担当 [hilo Press 内] までお送り下さい。

<p>[A] ロゴ一式 (zip) ※使用規定 (pdf) 同封</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<p>[B] パナール一式 (zip) ※使用規定 (pdf) 同封</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
--	---

[C] 広報画像 (zip) (第 17 回文化庁メディア芸術祭大賞受賞作品画像【1】～【4】.jpg)
 (昨年度【第 16 回】文化庁メディア芸術祭受賞作品展の様子【5】【6】.jpg) ※使用規定 (pdf) 同封

<p>[1] アート部門大賞</p>  <p>キャプション (【1】【2】【3】【4】共通) : 第 17 回文化庁メディア芸術祭 【1】アート部門 大賞 『crt mgn』 Carsten NICOLAI</p>	<p>[2] エンターテインメント部門大賞</p>  <p>キャプション (【1】【2】【3】【4】共通) : 第 17 回文化庁メディア芸術祭 【2】エンターテインメント部門 大賞 『Sound of Honda / Ayrtton Senna 1989』 菅野 薫/保持 壮太郎/大来 優/キリーロバ ナージャ/米澤 香子/関根 光才/澤井 妙治/真鍋 大度</p>	<p>[3] アニメーション部門大賞</p>  <p>指定クレジット : © 2013 Carsten Nicolai. All Rights reserved Photo: Uwe Walter Courtesy Galerie EIGEN + ART Leipzig/Berlin and The Pace Gallery © Honda Motor Co., Ltd. and its subsidiaries and affiliates.</p>	<p>[4] マンガ部門大賞</p>  <p>指定クレジット : © Mosaique Films - Artémis Productions - Panda Média - Nadasdy Film - France 3 Cinéma - 2012 © LUCKY LAND COMMUNICATIONS/SHUEISHA</p>
<p>[5]</p>  <p>キャプション (【5】【6】共通) : 昨年度【第 16 回】文化庁メディア芸術祭受賞作品展の様子 提供：文化庁メディア芸術祭事務局</p>	<p>[6]</p> 		

< 広報画像のご使用にあたって >
 ※広報画像のご使用は「第 17 回文化庁メディア芸術祭」をご紹介いただく場合に限りさせていただきます。フェスティバル終了後は使用できません。
 ※広報画像【1】～【6】は全図でご使用ください。部分使用や作品に文字や他のイメージを重ねることはお控えください。
 ※指定クレジットを必ずご記載いただきますようお願いいたします。またキャプションを可能な限りご記載いただきますようお願いいたします。
 ※校正グラを広報担当までお送りください。

貴社についてお知らせください

<input type="checkbox"/> 貴社名	<input type="checkbox"/> 媒体名
<input type="checkbox"/> ご担当者名	<input type="checkbox"/> 所属部署
<input type="checkbox"/> ご住所 〒	<input type="checkbox"/> Email
<input type="checkbox"/> Tel	<input type="checkbox"/> Fax
<input type="checkbox"/> ご掲載・放映の予定日	月 日

< 個人情報の取り扱いについて >
 ご記入いただきました個人情報は、文化庁メディア芸術祭広報からの情報配信やご案内等必要なご連絡にのみ使用いたします。許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。